



矢野口自工株式会社 会社案内

YANOKUCHI JIKOH CORPORATE PROFILE



# 100年企業をめざして

## 「新しい働く車」への挑戦



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私達は、持続可能な開発目標を支持し、2030年に向け持続可能な社会づくりに貢献します。



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに  
地球環境に配慮したEV車、FCV車に積極的に取組みます。



12 つくる責任 つかう責任  
エネルギーの大量消費、大量廃棄をあらため、持続可能な発展のため、環境への負荷削減に努めます。



8 働きがいも経済成長も  
さまざまな格差をなくし、働きがいのある職場を創り100年企業をめざします。



17 パートナリシップで目標を達成しよう  
これまで、開発途上国へ多くのリユース車を輸出してきました。これからは、車両を通じて技術と人材育成にも努めます。

## ごあいさつ

**創** 業者 矢野口由孝は、1921(大正10)年上京後、3社の自動車関連会社を経て、1953(昭和28)年47歳で念願の整備工場を創設。同時に、東京陸運輸局の「認証事業所」となりました。当時、全国の自動車登録台数はわずか600,000台余り、メーカー系列ではない独立した整備工場でありながら、帝産オートグループなどの大手のお客様に恵まれました。これは、自他共に認める高い技術力の賜物だったと思います。

**昭** 和40年代に入ると、高度経済成長に伴い車両台数は、一気に10倍の6,000,000台に達しました。こうした急激な増加に対応する為、これまで国が行ってきた検査の一部を、民間企業に代行させることを柱とした「指定自動車整備事業制度」が制定されました。

私共も、昭和44年「指定自動車整備事業」者となりました。昭和50年代には、上・下水道など社会インフラ建設工事が増えてきました。当時は、あまり知られてなかった吸引車、洗浄車などの特装車が注目されるようになりました。こうした中で、まずは特装車の存在と活用方法を知って頂く為、“全国を廻るキャラバン活動”を展開しました。

**二** 代目、矢野口守男は1973(昭和48)年に矢野口自動車商會を設立し代表を務めた後、全国に築いたお客様ネットワークと共に矢野口自工の代表に就任しました。今日の矢野口自工の車両販売部の基礎を築きました。

**こ** れまで、作業現場で必要とされ、役に立つさまざまな車両を制作・提供してきました。これらは、私共の独自のアイデアから生まれたものです。

- 吸引車にホッパーを接続し、フレコンバックに自動的に袋詰めする“サクシオンバック車”
- ダム建設現場でのコンクリート打設の表面処理車 グリーンカット車 “アライグマ”
- 大型トレーラーに脱水装置を搭載した“移動式脱水車”
- 放射性物質を道路から取除く除染車としてドイツ製 “LADOG車” “Nothelfer車”
- 粉体専用吸引車 “Twin Vac”
- 中間貯蔵施設で活躍する“荷台シートを自動開閉するダンプカー”

これら車両は、作業効率、経済性の点で、お客様から高い評価を頂いております。

**ジ** ーエス管業(株)(下水道メンテナンス業)と、2017(平成29)年に資本提携し、グループ会社となりました。これからは、互いの経験、情報、車両、機材を共有し、新しい仕事の領域にチャレンジします。

**福** 島・浜通り工場が、2019(令和元)年完成。新しい雇用を生み、地域経済に貢献します。同時に、お客様が必要とされる“こんな車があったらいいな”と言うニーズに応えるべく「新しい働く車」の研究・開発に取り組んでゆきます。

**私** 三代目は、創業者由孝の自叙伝『私の自動車人生65年』を紐解き、創業者が努力を積み重ねてきた、“事業への思い” “お客様への思い” “社員の方々への思い” を基本理念とした「企業理念」(平成27年)を制定しました。これは、私達の「使命・目標・方向性・社員としての行動規範」を定めたものです。私達は、この「企業理念」を常に反芻し、存在意義を問い直しつつ、「100年企業」をめざし前進を続けてまいります。

矢野口自工株式会社  
代表取締役 矢野口 智一

#### ■ グリーンカット

ダム堤体のコンクリート打設の際、打設されたコンクリートの表面はレイタンスと呼ばれるセメント等の微粒子に覆われます。その上にそのままコンクリートを打ち続けると水漏れの原因となります。そこで、まだ固まってない段階で、圧力水やブラシを用いた機械で表面を薄く削り取る作業を行います。この作業をグリーンカットといいます。

【引用:「ダム事典」財団法人日本ダム協会編】

# これまでの歩み

昭和

**1953**  
(昭和28年)  
東京都品川区に矢野口由孝が「矢野口自動車工業」を創業、「認証事業所」となる。



**1959**  
(昭和34年)  
「矢野口自工」に社名変更、資本金2,500万円。

**1969**  
(昭和44年)  
「指定自動車整備事業」(いわゆる民間車検場)となる。



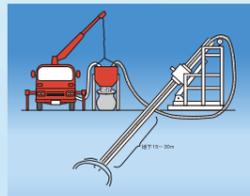
**1973**  
(昭和48年)  
矢野口自動車商会設立。

**1975**  
(昭和50年)  
全国キャラバン活動特装車の活用方法をP.R.



**1976**  
(昭和51年)  
車両販売部スタート。ジーエス管業創業。

**1980**  
(昭和55年)  
サクシオンバック車誕生(初代)。



**1982**  
(昭和57年)  
プラント部スタート。



平成

**1990**  
(平成2年)  
移動式脱水車が完成。現在の本社ビル(大田区城南島)に本社部門と整備部門を移転。レンタル部スタート。



**2007**  
(平成19年)  
粉体専用吸引車「Twin Vac」誕生。



**2008**  
(平成20年)  
グリーンカット車のベース車両としてドイツLADOG車を初めて輸入。

**2010**  
(平成22年)  
グリーンカット車「アライグマ」誕生。



**2011**  
(平成23年)  
東日本大震災と放射能事故。

〈震災発生〉  
3月11日 14:46  
マグニチュード 9.0  
震度 7強  
震源地 三陸沖

〈放射能事故〉  
巨大津波による福島第一原発の炉心溶融が起き放射能汚染が引き起こされた。

〈福島進出の契機〉  
この除染作業に携わったことにより福島への進出が始まった。

**2012**  
(平成24年)  
本社ビルに全部門を収容。ドイツNothhelfer社から道路除染車として第1号車を輸入。



**2013**  
(平成25年)  
福島・浜通り営業所を開設。道路除染作業に本格参入。LADOG車とNothhelfer車を投入。



**2016**  
(平成28年)  
バンダップ製品化(特許取得)フレコンバックのベルト自動立ち上げ。



**2017**  
(平成29年)  
荷台シート自動開閉式ダンプカーの誕生(特許取得)。ジーエス管業と資本提携し、グループ会社となる。



令和  
**2019**  
(令和1年)  
福島・浜通り工場の操業開始。



**2020**  
(令和2年)  
ジーエス管業本社ビル完成。新型コロナウイルス世界中で猛威を振るう。



## To Next Stage 2053年 創業100年に向けて

これまでの、私達の歩みは、創意と情熱の歴史でした。これからも、「100年企業」をめざし前進してゆきます。

### 矢野口自工の独自の技術力

● 1980(昭和55年)  
サクシオンバック車

吸引車にホッパーを接続し自動的にフレコンバックで回収

- ・浄水場のろ過砂、活性炭の回収
- ・道路側溝の汚泥回収
- ・下水道の汚泥回収

● 1990(平成2年)  
移動式脱水車

遠心分離装置(電動式)をフルトレーラーに搭載した脱水車

- ・池、湖沼の汚泥の脱水
- ・メッキ工場の汚泥からの有価金属回収
- ・工場排水の汚泥の脱水

● 2007(平成19年)  
粉体専用吸引車「Twin Vac」(特許取得)

二重のフィルターで粉体の飛散を防ぎ、回収率は99.9%

- ・焼却工場の焼却灰の回収
- ・サイロ、ホッパーからの粉体回収
- ・粉末活性炭の吸引回収

● 2010(平成22年)  
グリーンカット車「アライグマ」

ダム現場でのコンクリート打設面のレイタンス回収車

- ・ダム建設現場のレイタンス回収

● 2012(平成24年)  
Nothhelfer車

路面高圧洗浄車

- ・道路洗浄
- ・透水性機能回復
- ・テニスコートのリニューアル

● 2013(平成25年)  
LADOG車

道路清掃車

- ・道路除草
- ・堆積物回収
- ・道路除雪
- ・融雪剤散布

● 2016(平成28年)  
バンダップ製品化(特許取得)

フレコンバックのベルトを人の手を介さず自動的に立ち上げる樹脂製品

- ・フレコンバック積み降し作業

● 2017(平成29年)  
荷台シート自動開閉式ダンプカー(特許取得)

運転席のリモコンで荷台シートを自動的に開閉できるダンプカー

- ・中間貯蔵施設での廃棄物運搬

# Maintenance

## 整備部門

整備部は、創業以来70年、長い業歴の中で、その時代時代で活躍した様々な車両の整備に携わってきました。変わったところでは昭和50年代に東京都が導入した“2階建てロンドンバス”の整備なども手掛けました。近年では、吸引車、洗浄車、パッカー車などの特装車両が多くなりました。2021年より低床大型トレーラー(イタリア製)を導入し、お客様の車両を載せて本社工場と浜通り工場を往復し、両工場の効率化を図ります。今後の課題として、近い将来、大型トラックでもクリーンエネルギー自動車(EV車、FCV車)が増え、新しい技術への対応が求められます。これまで培ってきた経験と新しい技術を習得し、お客様から“矢野口に頼めば”と信頼される整備工場を目指してゆきます。



年間整備台数	
本社	1,800台/年
福島・浜通り営業所	1,500台/年
合計	3,300台/年

# Plant

## プラント部門

1982(昭和57)年 プラント部は、自社が取扱う車両を用いて、お客様の設備のメンテナンス工事を請負うことからスタートしました。1985(昭和60)年 浄水場(千葉県下)の活性炭取出し工事に、それまで手作業で袋詰めしていた作業を、吸引車にホッパーを接続し自動的に袋詰めする浄水処理場での大量の活性炭や、ろ過砂を取出す際には、無く対象物に出会い、それらに適した車両や機材の開発をしてきました。粉体専用吸引車“Twin Vac”、脱水機を搭載した“移動式脱水車”など独自のアイデアと技術力で実現させました。これからも、安全で効率的な作業ができる新しい車両と工法を追求し、お役に立って



保有車両	
本社	18台 工事物件 300ヶ所/年
福島・浜通り営業所	31台 工事物件 80ヶ所/年
合計	49台 工事物件 380ヶ所/年

# Rental

## レンタル部門

1990(平成2)年 レンタル事業のスタート。バブル経済がはじけ、多くの作業現場で工期短縮、工事費の削減が求められるようになりました。こうした状況から、機械化作業へのニーズが一段と高まり、「環境関連車両」へのレンタルを希望するお客様が増えてきました。私共のレンタル車両や機材にはダム建設現場の「グリーンカット車」、さまざまな吸引物を回収する「吸引車」、高圧水による「洗浄車」、ごみ回収用「パッカー車」、道路清掃用「LADOG車」「Nothelfer車」、中間貯蔵施設における荷台のシートをリモコン操作で自動開閉する「ダンプカー」などがあります。最近では、リモコン操作による「無人草刈機」のレンタルをはじめました。これからも、作業の効率化が求められる折、必要とされる車両や機材を取り揃え、お客様のニーズにお応えできるよう努めてまいります。



保有台数	
本社	31台(吸引車、高圧洗浄車、散水車他)
福島・浜通り営業所	44台(ダンプカー、パッカー車、吸引車他)
合計	75台

# Sales

## 販売部門

1973(昭和48)年、二代目社長守男は矢野口自動車商会を設立した後、全国のお客様と共に矢野口自工の代表に就任しました。このお客様ネットワークを生かし、1976(昭和51)年 車両販売部をスタートさせました。当時としては、まだまだ知られていなかった吸引車、洗浄車などの環境整備車両の販売に取組み始めました。この頃から、社会インフラの建設工事に伴い、これら車両への需要が増えてきました。こうした車両の販売に特化したお陰で、台数を大きく伸ばすことができました。一方、中古車販売では、整備工場が販売する車両ということで、お客様からの絶大な信頼を頂いてきました。近年、私共はお客様の車両買替に際し、積極的に買取業務を行うと同時に、環境負荷の少ない最新の車両を推奨しております。今後ますます、本社並びに浜通り営業所一体となり、全国のお客様にきめの細かいサービスを提供してまいります。



年間販売台数(新車、中古車含め)	
本社	200台/年
福島・浜通り営業所	50台/年
合計	250台/年



**お客様の満足が、私達の技術力の証。**  
**創業以来培った経験と技術力で、「新しい働く車」に挑戦します。**

# Ladog

## ラドック部門

2008(平成20)年 走行しながら作業ができるドイツ・LADOG車に着目し日本で初めて輸入しました。この車両に、ダム建設現場のコンクリート打設時の表面処理車として、独自に開発したアタッチメントを備えたグリーンカット車“アライグマ”を誕生させました。その後、2011(平成23)年 東日本大震災による原発事故が発生。除染作業が始まると大手ゼネコンから作業効率の良い除染車両の問い合わせが寄せられました。早速LADOG社に相談し、高圧洗浄装置を装着した“Nothelfer車”を推奨されました。2012(平成24)年 環境省はじめ大手ゼネコンのもとで除染性能テストをおこない、本格的に採用頂ける事になりました。一方、LADOG車はアタッチメントが交換でき 道路の除草、堆積物除去車として活躍しました。これら2つの車両の性能と効率が優れていたことにより、多くの作業面積を請負い、各方面から高い評価を頂きました。今後は、LADOG車、Nothelfer車の比類なき特殊な性能をアピールし、さまざまな作業現場でお役に立ちたいと思います。



保有台数	
LADOG車	7台(除草、除雪、道路清掃)
Nothelfer車	10台(路面洗浄)
合計	17台

# Fukushima

## 福島・浜通り営業所

敷地面積	13,964.00m <sup>2</sup>
(事務棟)	162.00m <sup>2</sup>
建築面積	933.12m <sup>2</sup>
(整備工場棟)	933.12m <sup>2</sup>
(塗装工場棟)	972.00m <sup>2</sup>

2013(平成25)年大手ゼネコンの下で、LADOG車、Nothhelfer車を用いた道路除染作業に本格参入。日々の作業状況と100名を超える作業員の動静を把握するため、「福島・浜通り営業所」を開設しました。

一方、東京本社が敷地が狭く車両収容スペースが限界となっていたことから、これを解消する新工場の建設を模索しておりました。除染活動でお世話になった作業員の皆様の継続雇用と、福島復興の一助となるよう当地区に進出を決めました。

2016年8月 楡葉南工業団地に用地取得、2018年8月 建設着手、2019年7月 新工場の操業開始。



# G S kangyo

## ジーエス管業株式会社

設立	1976年(昭和51年)8月
資本金	1,000万円
本社	〒177-0031 東京都練馬区三原台2-19-9
業種	下水道メンテナンス(清掃、調査)

1976(昭和51)年 当時は、多くの会社が人手による管路内清掃を行っていた時代で、下水道清掃会社としてジーエス管業株式会社は誕生しました。その後、ジーエス管業はいち早く吸引車や洗浄車を用いた機械施工に取組み、これまで都民生活に欠かせない下水道というライフラインを支えてきました。これからは、総延長16,000kmに及ぶ老朽化した管路の更生工事、さらに、最近頻発する集中豪雨に備える巨大な地下の雨水滞留施設のメンテナンス工事が増えてきます。こうした大規模工事には、大型超強力吸引車や管路内調査カメラなどの調査機材が新たに必要となります。

2017(平成29)年 同社は私共のグループ会社となり、日本に数少ない大型超強力吸引車や機材を共用でき、これら工事にも対応できるようになりました。2020(令和2)年、念願であった新社屋(東京都練馬区)が完成、これからは両社が一体となって“ひと”“もの”を活用し、情報を共有することで、新しい事業分野に挑戦します。



## 会社概要

設立	1953年(昭和28年)4月
資本金	3,900万円
代表者	代表取締役 矢野口 智一
従業員	60名
組織	

本社	業務内容
管理部	人事、組織の管理並びに経理業務
整備部	特装車の整備全般(修理、板金、塗装)及び車検業務
車両販売部	特装車の全国販売と買取業務(新車、中古車)
プラント部	吸引車、粉体専用吸引車、脱水車などを用いた各種作業の請負
レンタル事業部門	吸引車、洗浄車、ダンプカー、バックホウ車のレンタル事業
LADOG事業部門	LADOG車、Nothhelfer車の販売並びにこれら車両を用いた各種作業の請負
浜通り営業所	
営業部門	特装車の販売と買取業務(新車、中古車)及び作業請負に関する営業
工場部門	特装車の整備全般(修理、板金)及び車検業務、大規模塗装ブースによる塗装業務
プラント部門	吸引車、粉体専用吸引車、脱水車などを用いた各種作業の請負
関連会社	
矢野口自動車商会	車両販売・買取、世田谷展示場の運営管理
ジーエス管業	下水道メンテナンス(清掃、調査)

## 海外

- 整備部**
- ・1990(平成2)年 一般社団法人日本外交協会様のご依頼により、消防自動車、救急車、図書館車などの整備を開始  
これまで500台を超える車両をリユース車として開発途上国に輸出
  - ・2019(令和元)年 キルギス共和国に救急車を輸出し、当社整備士による技術指導を実施
  - ・2020(令和2)年 パラオ共和国に消防自動車を輸出し、現地にて技術指導を実施

## プラント部

- ・1997(平成9)年 韓国、台湾の石油精製所の触媒(脱硫剤)の交換を、大型吸引車を用いて実施

## LADOG事業部

- ・2008(平成20)年 ドイツLADOG車を日本で初めて輸入
- ・2012(平成24)年 ドイツNothhelfer車を初めて輸入
- ・2020(令和2)年 札幌市向けLADOG凍結防止剤散布車を納入

## 資格

### 整備部

- ・1953(昭和28)年 運輸省 東京陸運局 「認証事業所」
- ・1969(昭和44)年 運輸省 東京陸運局 「指定自動車整備事業」  
2級整備士 18名

### 販売部

- 古物商
- 査定業務実施確認店
- 中古車査定業務士

### プラント部

- 建設業 東京都知事(7業種)
- 産業廃棄物処理業(1都1県)
- 産業廃棄物収集運搬業(1都6県)
- 産業廃棄物処理施設設置許可証(1県)
- 特別管理産業廃棄物収集運搬許可証(1県)
- 2級土木施工管理技士 4名





<http://www.yanokuchi.com>

**矢野口自工株式会社** 〒143-0002 東京都大田区城南島 4-5-8



■ 本社・管理部	TEL 03-3799-0770 FAX 03-3799-5757
■ 整備部	TEL 03-3799-5566 FAX 03-3799-5483
■ プラント部	TEL 03-3799-5861 FAX 03-3799-5862
■ 車両販売部	TEL 03-3799-5155 FAX 03-3799-5154
■ 特装レンタル部	TEL 03-3799-5585 FAX 03-3799-5757

■ 世田谷展示場	〒156-0054 東京都世田谷区桜丘 5-35-9 本社直通 TEL 03-3799-5155
■ 福島・浜通り営業所	〒979-0513 福島県双葉郡楡葉町大字山田岡字仲丸 1-72 TEL 0240-25-5790 FAX 0240-25-5789

■ ジーエス管業株式会社	〒177-0031 東京都練馬区三原台 2-19-9 TEL 03-5935-6891 FAX 03-5935-4914
--------------	---

